

花ちゃん・オー君・モンタ博士・フツ博士のわくわくドキドキプレゼントづくり

国立市立国立第七小学校

平成29年12月22日 NO.81 (481)



オー君 「もうすぐクリスマスだ！サンタさんがトナカイといっしょに、たくさんのプレゼントをもってきてくれるぞ。」

花ちゃん 「クリスマスツリーが飾られ、街がキラキラ銀色にきらめいて、シングルベルの曲が流れ、わくわくドキドキの楽しいクリスマスですね。」

モンタ博士 「二学期もみんなとてもよくがんばったから、そのごほうびだね。」

花ちゃん 「クリスマスには、おいしいものをいっぱい食べられますね。」

オー君 「どんなプレゼントがあるかなあ？とっても楽しみです。」

モンタ博士 「ところでさ、クリスマスというと、プレゼントのラッピングなど、赤や緑や白が多いけど、どうしてなんだろうね。疑問に思ったことはないかい。」

オー君 「いつも、何がプレゼントかなあということで、あまり気にしてないです。」

花ちゃん 「そういえば、赤・緑・白などをクリスマスカラーというんですよね。」

モンタ博士 「そうだよ。それぞれきちんと意味があるんだよ。知りたいと思わないかい。」

花ちゃん 「そうですね。そういえば知りたくなりました。モンタ博士。教えてください。」

モンタ博士 「まず、ツリーだけど、モミやドイツウヒなどの常緑樹である針葉樹が使わ

れるよね。」

花ちゃん 「そういえば、モミジ、イチヨウ、サクラのツリーなんてないですね。」

オー君 「モミジなど、葉っぱが落ちてしまう落葉樹ではまずいんですかね。」

モンタ博士 「そうだよ。モミなどの木は、1年中緑色をしていて、冬でも葉が落ちないで青々としているだろう。そこで、モミの木を『永遠の命』のシンボルとして大事にしたというわけなんだよ。」

花ちゃん 「なるほど、それで緑色なんですね。」

モンタ博士 「それから、クリスマスの飾りつけで欠かせないのがセイヨウヒイラギだね。緑の葉っぱだけでなく、あざやかな赤い実は、人をひきつける。しかも、緑と赤は補色の関係にあるから、いっそうよく目立ち華やかなんだよ。」

オー君 「なるほど、それで赤い色なんですね。」

モンタ博士 「それだけではなく、赤はキリストの流した血と、神の愛と寛大さの意味もあるんだそうだよ。」

花ちゃん 「なるほど。それでは、白はどうしてですか。」

モンタ博士 「白は、純潔と雪をあらわす色で、雪のように清らかなで素直な心をもつようにというキリスト教の教えがあらわれた色なんだよ。」

オー君 「ふーん。いろいろと理由があるんですね。それでは、モンタ博士。どうして、クリスマスツリーにはいろいろなものを飾ったりするのですか。」

モンタ博士 「これもいい質問だ。モミの木に住むといわれる小人のために、花や食べ物、ろうそくなどを飾ってあげたというわけなんだよ。これが美しく飾られる現代の『クリスマスツリー』の起源なんだそうだ。また、小人は、サンタクロースの原型であるとも言われているんだよ。」

花ちゃん 「みんなみんないろいろな意味があるんですね。」

日本では・・・？

日本のお正月も寒い冬の間、いつも緑色をしているマツやタケを門松として飾ったりする。スギやサカキはご神木として神社などにもよく植えられている。遠く離れて住む日本人の祖先と、ヨーロッパ人の祖先が、とてもよく似た感覚をもっていたというのは、とても驚きだ。冬の寒い季節を生きている植物の生命に畏敬の念を感じる感覚というのは、人間として本来もっているものであり、民族や言語や宗教が違っていても、その思いは同じであるということだろう。